

みんなが、「笑顔の登校 感謝の下校」ができますように！！

2024年・令和6年も2月になりました。学校では昔から、「1月は、行く。2月は、逃げる。3月は、去る。」と言って、1月から3月の3カ月間の日々が過ぎるのを、早く感じることを伝えてきました。これは、「一月往ぬる二月逃げる三月去る」ということわざで、「正月から三月までは行事が多く、あっという間に過ぎてしまうことを、調子よくいったもの。」を学校生活の中で表してきたものです。まさにそう思います。学校では、各学年ともに本年度の総まとめと、来年度へ向けての準備をする3カ月間です。子どもたちは、一人ひとり心も身体も成長して来ています。今年度、学校内外で心と身体で学んだことが、その成長をさせています。さらに次年度へ向けて、横島小の宝子たちが、心身ともに成長していきますように、みんなが、「笑顔の登校 感謝の下校」できるように職員全員、チーム横島小で尽力していきます。

能登半島地震への募金 1月29日(月)



運営委員会が代表して募金をわたしました

みなさんご存じの通り、私たちが玉名で穏やかなお正月を迎えていたころ、能登地方を震源とするマグニチュード7.6の強い地震が起き、石川県、富山県、福井県、新潟県で多くの災害、被害が発生しました。中でも石川県では、1月30日(火)現在で、災害関連死も含めて238名の方が亡くなられ、19名の方の安否がまだにわかっていません。また、多くの家屋が倒壊した

り、道路が寸断されたり、水道が使えない状況が続いています。そして、1か月がたった今でも、真冬の凍てつく寒さの中で、多くの人びとが、避難生活を送られています。横島小学校の子どもたちと同じ年の子どもたちが、学校で学んだり、遊んだりできない状態があります。

この地震によりお亡くなりになられたみなさんに謹んで哀悼の意を表します。また、被害に遭われたみなさんに心からお見舞い申し上げます。

8年前の2016年の4月に熊本地震を経験した私たち熊本県民にとって、今の能登半島をはじめとする震災被害に遭われた方々の姿を見ると、心が強く痛みます。あの時、熊本県に全国各地や海外からも、たくさんの支援をいただきました。励ましをいただきました。そのおかげで、私たちは、悲しみや苦しみから、前を向いて復興へ立ち上がる元気や勇気を出すことができました。

そのことを横島小学校の子どもたちが思い出し、今度は、私たちが、震災で悲しんだり、苦しんでいた人たちに元気や勇気を出してもらうための行動をしようと考えました。子どもたちと先生方とで考えて、その思いを形にして届けるために募金活動しようということになり、全校児童に呼びかけて取り組みました。そして、集まった募金を1月29日(月)に児童を代表して、運営委員会の子どもたちが、玉名市役所横島支所を通して、被災地に届けていただくようにしました。

大谷グローブ 1月22日(月)



昨年の12月26日(火)に玉名市教育委員会を通して、メジャーリーガーの大谷翔平選手から「大谷グローブ」をいただきました。市教育委員会から必ず子どもたちの面前で箱を開けるようにと指示があっっていて、いつ子どもたちにお披露目するか考えました。インフルエンザが流行していて、体育館に集合しての全校集会ができない状態だったので、悩んだ末に、朝活動の時間にオンラインで箱を開けて子どもたちにお披露目しました。子どもたちは、「横島小には届いているのだろうか。いつ大谷グローブを見れるのだろうか」と待ちわびていました。各教室のスクリーンを通して、私が箱を開けるのを見た子どもたちからは、一斉に歓声が沸き上がりました。子どもたち全員がグローブに触れるように、1日ごとに各学級を巡回しています。巡回が終わったら、グローブを使ってみんなで野球をする予定です。箱の中には、子ども用の右利き2つと左利き1つのグローブが入っていました。そして、大谷選手からの手紙が添えられていました。手紙には、以下のように書かれていました。

学校関係各位

貴校ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ロサンゼルス・エンジェルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー大谷翔平です。この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介するためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。

それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブを寄贈させていただけることに感謝いたします。

貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

みなさんご存じの通り、大谷選手は、野球選手としても人としても素晴らしいひとです。小学2年生から野球をはじめ、プロ野球選手になることを夢見て、家族の愛と周りの人びとの力をもらい、練習に励んできたそうです。大谷選手は、花巻東高の1年生だった16歳の時に東日本大震災の被害に遭って、辛く、苦しいときを、互いに助け合い、力を合わせて乗り越えてこられました。そして、夢がかなって現在、メジャーリーガーとして、今年からロサンゼルス・ドジャースで活躍することとなりました。

大谷グローブが届いた後に、能登半島地震が起き、たくさんの被害が出ています。被災地の小学校にもこのグローブが届いているはずですが、大谷グローブには、どんなに困難にあっても、夢をあきらめず、自分がなすべきことをやりつづけ、夢を叶えることが込められています。その思いを横島小の子どもたちと深く受け止めて、それぞれがなすべきことをやりつづけたいと思います。